



# 検定試験を受ける 絶好のチャンスです

「目標は志望校合格 目的は自己学習能力の育成」生徒のみなさん、このフレーズを知っていますか。教室内を見渡してください。必ずこのフレーズが見つかるはずですよ。

「自ら計画を立て、その計画に基づいて実行し、その後、修正点を見つけて、次の計画に生かし、また実行する……」こういったことができる能力が自己学習能力です。みなさんには自己学習能力の高い生徒になってもらいたいと私たちは思っています。

さて、この自己学習能力を育成する場面は至る所にあります。たとえば、日常学習である「宿題」、また、中間テストや期末テスト前の「定期テスト勉強」、さらに、「受験勉強」等、様々です。しかし、今回、声を大にして伝えたいのが「検定試験(漢検・数検・英検)の勉強」です。これも自己学習能力の育成に大いに役立ちます。

では、なぜこの時期に「検定試験」について強調したいのか。それには二つの理由があるからです。

まず、一つめ。現在のグローバル化をふまえ、「英語の民間資格試験」を一般入試に導入する大勢が増加してきました。今後、より一層増加することが予測されます。そこで、小・中学生のみなさんには、今のうちに少しずつ「民間資格試験」に慣れていってほしいのです。みなさんにとって

の民間資格試験というのが「漢検」「数検」「英検」です。

そして、二つめ。これは、中学一年生、中学二年生に該当する話です。ほとんどの中学校で今月、二学期末テストが実施されます。では、次回の「学年末テスト」はいつ実施されますか。たいてい二月中旬から下旬ではないでしょうか。そうすると、二学期末テストから学年末テストまで約三ヶ月も空いてしまいます。そのため、この期間、何も考えずに過ごしていると、勉強に対するモチベーションがどんどん下がっていきます。また、学習習慣も一気に崩れていく可能性があります。

しかし、この期間、よく考えると「検定試験」を受けるのに絶好のチャンスだと思いませんか。十月に「検定試験」を受けた人、思い出してみてください。このときの勉強は、中間テスト勉強と並行してやらなければいけなかったため、過酷なスケジュールではなかったですか。大変でしたよね。でも、今度実施される検定試験は学年末テストの日程とずれるため、非常に勉強に取り組みやすいのです。みなさん、そう思いませんか。ぜひ、「漢検」「数検」「英検」のいずれかにターゲットを絞って(もちろん、二つ受けてみるのも大歓迎)、挑戦してみませんか。みなさんのチャレンジを楽しみにしています。

《参考》次回、創学舎で実施される検定試験の日程

「英検」(二〇一六年一月二十三日)

「漢検」(二〇一六年一月三十日)

「数検」(二〇一六年二月十三日)

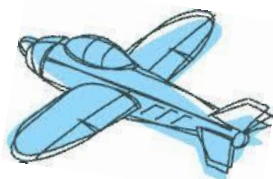


(村田)

# 不可能を可能にする

今年も残すところあと一ヶ月と少し。模試の判定で四苦八苦している受験生も多いのではないのでしょうか。また我が子の模試の判定に気が休まらない保護者の方もいることでしょう。E判定から合格して「不可能を可能にした」先輩は過去にたくさんいます。まだあきらめるのは早い!

人類の歴史の中で「偉業」を成し遂げてきた人々も、「そのときの常識」では不可能と思われてきたことを、自分の夢に情熱を傾けて可能にしてきました。また飛行機のなかった昔、空を飛んでみたいと本気で考えた男たちがいました。世間の人たちは言いました。「空なんて飛べるはずがない。あいつらは気がふれている。」それでも彼らはあきらめず、空を飛びたいという夢を追い続けてくれたおかげで、今、人間は大空を飛び交うことができます。



とは言っても、誰しも夢を追い続けることができるわけはありません。人はしばしば目標を失い、勉強や仕事をする、ときには生きることにも苦しみ悩むことがあります。

そもそもなぜ仕事(勉強)をするのか?私は目標も仕事をする意義すらも見失い、仕事を辞めようとして考えていた時期が一度だけありました。仕事中にはもちろん私生活にも全てに嫌気がさして、四六時中真っ黒のサングラスをかけているように、見る景色すべてが真っ暗闇でした。学年の切り替わりの時期になったら塾を辞めよう。そう決意をして、いつ目の前の生徒と会えるのが最後になってもいいように、全力で授業をしていました。そんな私の視界に光を差してくれた一人の女の子がいました。その子が授業後に私のところに来て

来て「力強い」眼差しで言いました。「先生、〇〇高校に絶対に行きたいんです。だから、英語を何とかしてください。」

自分のことを必要としてくれてる人が一人でもいる。そう感じられただけで仕事を続ける意味は十分すぎるほど満たされました。仕事をする意義は「誰かの役に立つこと」。大切なことに気付かせてくれたその女の子には今でも感謝してもしきれません。過去の偉人たちも「誰かのために」誰かの喜びのために「成功するまであきらめなかったのではないかと思います。」

誰かの役に立てれば、それがたとえ小さなことでも人はうれしく感じるものです。だからこそ役に立たないときはつらく落ち込んでしまうこともあります。時々テストの結果が思ったようにならないときなどに、「いつも応援してくれるお父さんお母さん、それに先生にもお礼がしたくて勉強を頑張ったのに、結果がよくなかった。」と私に涙を見せてくれる子もいます。そんな姿を見ると、全てが尊く思えてきます。

「受験なんてつらいだけで不幸になるだけだ。こんな制度はなくなってしまう。」と言っていた受験生もいました。確かに受験という制度上、合格者と不合格者が同時に生まれます。しかし、果たして「合格」幸せ、「不合格」不幸」という構図になるのでしょうか。塾講師という仕事は生徒が受験に合格することがゴールの一つです。しかし、生徒や保護者の方にとって、受験はゴールではなく通過点に過ぎないでしょう。受験勉強で得られる知識、それによって広がる世界観、つらい状況に立ち向かう忍耐、そして、支えてくれる周りの人への感謝などなど。つらい受験だからこそ得られるものは計り知れません。短絡的に「合格」幸せ、「不合格」不幸」と捉えてはもったいないと思います。

受験生のみなさん。今はつらい時期かもしれませんが。しかし、どんなに周りの人に「無理だ」と言われようとも、模試でE判定だろうとも、自分の夢に全力で情熱を傾けている姿は素晴らしいものです。つらくなったり、逃げ出したくなったりときは思い出してください。あなたの受験はあなただけのものではないと。あなたが合格したとき、喜ぶのはあなた一人ではありません。

家族や親せきのみなさん、学校・塾の先生。喜んでくれる人はたくさんいます。親子げんかが絶えなくても、あなたの受験勉強を支えてくれてい



るのは紛れもない家族の方々です。栄養満点のごはんを作ってくれらる。塾に送り迎えをしてくれていること。塾の授業料を稼ぐために必死に汗を流して働いてくれていること。あなたの進路を真剣に考えてくれていること。そういった支えてくれている人たちに思いを馳せることができれば、つらくても逃げ出したくなっても乗り越えられるのではないのでしょうか。過去の偉人たちが偉業を成し遂げたときがそうであったように。「誰かのために」という思いは人を強くしてくれます。

どんなにつらいときでも、どんなにくじけそうなどときでも、人生に失敗なんてない。全力で生きるとき、誰かのために前に進もうとしているとき、人は輝いているのです。受験まであと少し。まだ大丈夫。あなたの輝きで多くの人を喜ばせてあげてください。

(櫻村)

## 七転び八起

最近、何年かぶりに、中学、高校、大学と続けていたソフトテニスを本格的にやり始めました。少しばかり、試合もやったのですが、全く勝てませんでした。それでも、得意だった中ロブが一回ビシッと決まっただけで感覚を取り戻せたよう

気がして、幸せな気分になりながらぐっすり眠りました。(起きたときは全身、筋肉痛で地獄でした。)

さて、私が部長だったときに、重荷だったことの一つが練習メニューを決めることです。試合までの日数、天候などを踏まえて決めます。部員のみんなは、きつい練習をメニューに入れたときには、嫌だなどという表情を見せるので心苦しかったです。私は、初心者が多かった部活だったので、基礎的な練習の割合を多くして(乱打やサーブなど)、毎日の練習を組んでいました。実践的な練習は試合前だけにして、フォームを固める、相手に責められないような深いボールを打つことに重点を置いていました。

しかし、ちょうど二年生の秋ごろ、練習試合や一通りの大会が終わってみると、あまり結果が出ませんでした。そして、みんな、テニスよりも学校行事や勉強に打ち込み、やる気がなくなっていました。私に焦って、テニスの動画を調べたり、図書館でソフトテニスの雑誌をひたすら読んで読んで解決策を見つけようと思いました。そうしているうちに、一つ気づいたことがあります。それは、「試合を意識した練習ができていないこと」です。基礎的な練習でやることは、試合で必ず使うような、いつもできていなくてはいいことなんです。でも、それを試合の中で練習通りにやるように意識して、使えているかというところではありませんでした。基礎的な練習でやったことを、試合形式の実践的な練習のなかでちゃんと使えるようになって、はじめて「身についた」といえるのではないのでしょうか。

私は、「試合形式の練習で結果が出るのが怖かった」という自分の弱さに気が付きました。誰だって、悪い結果は見たくない。見ないまま、「なるようになれ!」と思っ、大会に臨んで、出た結

果には言い訳をつけてしまふ。よくない循環を作っていたのか、と反省しました。

実は、この経験はこの後の受験勉強や検定の勉強で役に立ちました。一問一答形式の基礎的な知識の問題を解いて、過去問をやってみます。点数として、自分の実力が現れます。そして、できていない部分は基礎的な問題で確認します。できている部分には自信を持ちます。

私は、自分の現状から逃げない強さを持つことが大切、そして、中学、高校時代はそれを養う途中になるのかなと考えています。七転び八起でも、次で絶対成功するぞ、と頑張るみなさんを私は全力で応援しています!

(大久保)



## スマホの害と

### 語彙力の低下のこと

●十月二十九日発売の週刊新潮十一月五日号に「学力低下の元凶は『スマートフォン』だった」という記事があった。(因みに、私は『世界』から『文春』まで片っ端から読む。)予想していなかった訳ではないが、仙台市教委と東北大が共同で行った調査結果に基づいており、非常に説得力があった。図書館に行けば、まだ読めると思うので、是非目を通していただければと思う。その中から一つだけ事例を紹介してみたい。

●「毎日三十分から二時間の勉強をしている生徒同士を比べた場合である。スマホを一時間未満しか使用しない生徒は、数学の平均点が65点を超えていたのに対し、同じ勉強時間を確保しているにもかかわらず、同じ勉強時間を確保している生徒の平均点は50点台前半まで下がっていたのだ。長時間勉強している生徒の場合も、スマホの使

用時間が明暗をわけている。一日二時間以上勉強する生徒は、スマホ使用時間が一時間未満なら、数学で平均70点以上を獲得している。ところが、同じ二時間以上勉強していてもスマホを二〜三時間使う生徒の場合、平均点は10点以上低い。たくさん勉強しても、長時間スマホをいじっていけば成績は下がるというわけだ。……ほかの科目にも同じ傾向がある。」

●引用が長くなったが、私としてもこのとおりだろうと思う。実際、高二生を教えると、中位〜下位の生徒のスマホ依存度の高さに驚く。一日に二時間はざら。四時間・五時間もいる。まずは、このバカ製造機の時間を一時間未満にすることに精力をとられる。毎時間叫び続けてようやく減ってくる。でもこれで終わりではない。

●スマホ(ほかにも多くの要因があるが)の害として(新聞も含めた)読書量の低下、それによる語彙力の低下、そして、抽象的な語句への忌避がある。例えばセンターの一文「それは、必然的であると同時に恣意的な出来事に対応関係によるものである。」中位〜下位の生徒は、一応漢字は音として読むことはできる。しかし、必然的や恣意的や対応関係という言葉の意味は分からない。いや、分からなくても全く気にしない。読むということは意味をとることだとすれば、彼らは全く読んでいない。

それでも一生懸命やるのだ。どの教科も。本人は考えているつもり。でも実は字を追っているだけ。高三には、今、「一日百回辞書を引け。意味にこだわる脳を作れ」と叫び続けている。(以下次号)

(小林)



#### ▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶ 退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
- ▶ 在籍していた教室までご連絡ください。